



NPO法人くまもと未来ネット 理事 井上 智 さん

仕事に“趣味”を持ち込むな

ここに一冊の冊子があります。「未来へのおくりもの～持続可能な熊本への提案～」。制作したのは「NPO法人環境ネットワークくまもと」(当時)です。大学教授や会社員、NPOスタッフが執筆し、7年前の2014年に発行されました。“持続可能な暮らしを熊本で”をテーマに6つのカテゴリー、23の指標から産業、行政、人々の生活のあり方の行動計画を提案しています。2015年、国連はSDGs(持続可能な開発目標)を採択。「未来へのおくりもの」はその一年前に持続可能な社会のあり方について問題提起をしています。

「残念ながら大きな反響は得られなかった。少し早すぎたんでしょう」と振り返るのは、環境ネットワークくまもとの理事だった井上智さん(62)。定年を迎えるまで大手半導体製造機器メーカーに技術者として勤務しながら、NPOの理事として活動をけん引しました。井上さんは環境保護の視線を自社(当時)にも向けていました。環境負荷が大きい鉛を使わずに製品を作る「鉛フリー」や原材料から製品廃棄後まで自社製品の環境への影響を評価し、環境負荷を減らす「ライフサイクルアセスメント」の実践を提案。会社からは反発を受けました。「社内では仕事に趣味(環境問題)を持ち込んでいると



ローカルの課題にグローバル視点で取り組む

警戒されていたようです」と井上さん。しかし、粘り強い働きかけと社会要求もあり、これらの提案は企業グループ全体の基準として採用されました。

ひとつの質問状が大企業を動かす

環境ネットワークくまもとの働きのひとつは、熊本の「水」を守ること。約20年前、井上さんは大手企業の半導体製造拠点の立地計画を知ります。「私たちはその企業に『公開質問状』を提出しました。半導体製造には大量の水が必要です。工場が地下水を大量に消費すれば、湧水量は減り、私たちの日々の生活に影響を及ぼします。質問状では、地下水の利用と保全について回答を求めました」。ほどなくして、企業から回答が届きました。「驚きました。書面から真摯な姿勢が伝わってきたからです」。井上さんらは企業と協議を重ね、2004年、ついには土地改良区、農家、大学、そして他の企業を巻き込んで、企業として全国初の「水の涵養事業」に取り組むことになりました。

井上さんが取り組んだのは、工場で使用されると試算した同等量の地下水を、農業と組み合わせて涵養するという壮大な計画でした。「土地改良区と農家の協力を得て、作付け前の水田に数カ月間水を張ります。涵養を実施した農家には企業から協力金が支給されます。結果、当初目指した数値の4倍もの水の涵養に成功しました」と振り返ります。事業で収穫された米や作物は工場や大学の食堂で提供され、『水の恵みエコ米』としてブランド化・販売されています。



持続可能な熊本であるために

井上さんが環境問題活動に取り組むきっかけとなったのは「アースデイ」でした。アースデイは毎年4月22日に世界で地球環境について考え、行動する日。熊本では1990年にスタートし、のちに、期間を1週間に延長してアースウィークになりました。「第1回の時に展示された環境問題のパネルを見て衝撃を受け、第2回からは実行委員として参加しました」。その後井上さんは1994年に立ち上げた環境ネットワークくまもとの一員として長年アースウィークの運営に関わりました。「YMCAは当初からアースウィーク事務局の役割を担っていました。これからも共に理想を追い続けて“持続可能な熊本”実現のパートナーであってほしいですね」と井上さんは語ります。

環境ネットワークくまもとは「NPO法人くまもと未来ネット」と名前を変え、井上さんは今も中心的な役割を担っています。「熊本地震を経験し、環境保護という視点だけでは、持続可能な地域社会づくりには限界があるのではと、メンバーと考えて舵を切りました」。ローカルに存在する課題をとことん追求し、グローバル視点で解決策を実践していく井上さん。その秘訣を聞いてみると「ある事象や方法を組み合わせると問題解決になるんじゃないか、そう思ってやってみる。その積み重ねです」と微笑みました。

Pickup

みんな仲良し!
黒川保育園
春の遠足



YMCA学院
スポーツデー

熊本YMCA本館
はじめての登校



SDGs × YMCA

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

YMCAはSDGsの実践を通して ポジティブネットのある豊かな社会づくりを目指します

世界規模で取り組まれているSDGs。熊本YMCAが行っているすべての活動はSDGsに含まれます。SDGsとYMCA運動をさらに推進していくことを目的に、熊本YMCAでは今年度「SDGs推進部」が発足しました。SDGsが発するメッセージには「誰ひとり取り残さない」とあります。SDGsを実践してポジティブネット※1のある豊かな社会をつくっていくことが、より良い社会へつながるものと考え、取り組んでいきます。皆さんも一緒に考え、行動していきましょう。

※1 互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワーク



YMCAでできること

YMCAで参加できるSDGsへの取組みの一部をご紹介します。
Webサイトではその他の活動もご紹介しています。



募金に協力する



YMCAへの募金は子どもたちや若者、留学生の支援や災害支援、福祉活動、国際協力に用いられます。

直接募金するだけでなく、街頭募金やチャリティープログラムに参加することも支援につながります。子どもたちも自分ができることから取り組んでみましょう。

国際活動に参加する



熊本YMCAではタイや東ティモール、ミャンマーのYMCAと協力して、現地のユースや子どもたちを応援しています。コロナ禍前はワークキャンプやスタディーツアーも実施。今もリモートでの国際交流を実施しています。YMCAで世界を知ることから始めませんか。

ピンクシャツデーに取り組む



YMCAは毎年2月に、いじめのない世界を目指すピンクシャツデーに取り組んでいます。身近ないじめ問題について考えることがSDGsが唱える「誰ひとり取り残さない」世界の実現につながります。いじめや差別について考える時間を持ちましょう。

キャンプに参加する



キャンプや野外活動こそSDGs。子どもたちはYMCAのキャンプに参加してお友だちやリーダーとともに自然について学びます。8月はSDGsをテーマにした地球にやさしい生き方について考える特別キャンプも企画しています。（4面に関連情報）

YMCAのプログラムに通う＝SDGs？

YMCA会員としてスポーツスクールや語学教育などのプログラムに参加している皆さんが支払う費用の一部は、上記を始めとするYMCAが行う様々な運動にも役立てられています。YMCAのプログラムに通うことも、SDGsにつながっているのです。



自分でできること

お買い物をエシカル※に

日常生活を送るうえで、必要不可欠となるお買い物。日々何気なく購入している商品が、実は環境破壊や人権侵害につながっているかもしれません。エシカル消費の第一歩として、持続可能な原料の生産や製造、流通を表す認証ラベルや商品マークを知ることからはじめてみませんか？

※エシカル：直訳は「倫理的な」という意味。ここでは、「人や地球環境、社会、地域に配慮した考え方や行動」を指します。



森を守るマーク
FSC認証

年々減少している森林の面積。このマークは、未来に森林を残すために、適切に管理された森林から生まれる商品であることを証明しています。



公平な貿易のマーク
国際フェアトレード認証

フェアトレードは、生産者の労働環境と生活水準の向上、自然環境の保護をサポートする持続可能な生産と取引のしくみのこと。このマークは、公平な貿易であることを示しています。

SDGsとは

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略で、2015年9月に国連サミットによって定められました。世界中の様々な問題を皆で考え、解決していこうとする国際社会共通の目標です。2030年をゴールとし、17の目標と169のターゲットで構成されています。

“わたしのSDGs”募集

皆さんが取り組んでいるSDGsの取組みを教えてください。YMCA NEWS紙面やWebサイトでご紹介します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう

R | E | P | O | R | T

[4月22日⇒ 5月21日]

防 災

次の災害に備えて 熊本市らと協定を締結

11 17

4月22日(木)に、熊本市、株式会社南栄開発、学校法人熊本YMCA学園の三者で、5月に開館した熊本YMCA本館における「災害時の避難場所・施設利用に関する協定」を締結しました。熊本市域内で災害が発生し、熊本市から要請があった場合、施設の2・3階及び駐車場を地域住民やその他避難が必要な方のために指定緊急避難場所として開放するという内容です。管理運営は、熊本市の協力を得ながらYMCAが主体となって行います。

熊本YMCAは2016年の熊本地震で、益城町と御

船町で避難所運営をした実績があります。新会館でも地域社会に貢献したいと考え、設計段階から防災及び減災の構想を検討。南栄開発、雅禧建築設計事務所の協力を得て、構造強化のみならず、避難場所として必要な設備も完備しています。

調印式では熊本市長の大西一史さんから、災害時における行政と民間団体の連携の必要性と熊本YMCAに対する期待が語られました。熊本YMCAは社会課題に取り組み、安心・安全に過ごせる地域づくりを目指します。 職員 熊本哲朗



保育園

園児たちの幼年消防クラブ 結成式を開催

4 11

5月21日(金)、YMCA赤水保育園の園庭で年長児7名と年中児10名による幼年消防クラブ結成式が行われました。このクラブは正しい火の扱い方を学び、消防の仕事に対する理解を深め、防火思想の普及を図るとともに、将来人命を尊重し、財産の保全を図る社会人としての素地を養成することを目的としています。

当日は雨天のため室内で実施。はじめに園児が「ぼくたち、わたしたちは、ぜったいに火遊びはしません」等と防火の誓いを述べ、機敏な動きで通常点検

を行いました。そして皆で力を合わせてミニ腕用ポンプを操作し、屋外に向けた放水に成功しました。

コロナ禍のため、今年は消防署からの来園はありませんでしたが、子どもたちは緊張感をもち練習の成果を発揮することができました。来場人数を制限する中、保護者たちは子どもの頑張る姿を最後まで温かく見守っていました。子どもたちとともに私たち職員も防火に対する意識をさらに高め、日々の訓練に努めていきたいと思ひます。

職員 二子石真弓



交 流

日本の農業文化を学ぶ 留学生が阿蘇で田植え体験

15

5月21日(金)、YMCAの日本語学校に通う留学生18名が阿蘇で田植えに挑戦しました。ほとんどの学生にとって田植えは初めての体験です。

本行事のきっかけは去年のこと。YMCAはコロナ禍で経済的に困窮する留学生を支援するために「留学生支援緊急募金」に取り組み、その募金を基に留学生全員に5kgのお米を購入して贈呈しました。お米は熊本が世界に誇る雄大な阿蘇の地で収穫されたとても美味しいもの。そのお米を育んだ阿蘇の自然と日本の農業文化を体験するため、今回

の体験に至りました。

留学生は素足で田んぼに入り、阿蘇運営委員の五嶋義行さんによる指導のもと、手作業で苗を植えていきました。最初は不慣れな手つきだった留学生も、徐々に作業に慣れ、約10アールの田んぼに苗を植えることができました。その後、YMCA阿蘇キャンプに移動しランチタイム。5グループに分かれてお好み焼きを作りました。日本の食文化を体験し、クラスを越えた交流を育むことができました。

職員 尾道一幸



Compassion

コンパッション Vol.3

総主事 神保 勝己

共感する力

1953年、ある少女の自殺をきっかけに、英国国教会の牧師チャド・バラはサマリタンズ運動として「いのちの電話」を始めました。悩み事の相談を受け、自殺者を減らすことが目的です。熊本では1985年に開局し、熊本YMCAも活動に協力してきました。現在は、熊本県がコロナ禍によるまん延防止等重点措置の適用を受けたため中止されていますが、電話相談員育成の講習会場としてYMCA本館を提供しています。

電話相談員に求められるのは、「共感する力」です。電話では姿勢や表情、しぐさなどは汲み取れませんから、声の調子に注意を払う必要があります。そして、相談者の気持ちを推測し、受けとめて共感を示すことや自己肯定感を高めることが求められます。この「共感する力」は、日常のコミュニケーションを円滑にするためにもとても大切なことです。

渡辺和子さんは著書「目に見えないけれど大切なもの」の中で、人間関係を和やかにするものとして「の」の字の有効性を紹介されています。会話の中に「の」が入ることで、相手を受け入れる癒し効果が出るそうです。例えば、何気ない会話の中で「今日は疲れた」と言ったとします。もし、聞いた方も「あなただけではない

でしょう、私も今日は疲れた」と共感する前に自己主張をしてしまうと、互いに疲れているアピールをすることになります。ここで、「の」を使うとどうでしょうか。聞き手が「疲れたの?」と返すと、話し手は自分の気持ちを汲み取ってもらった安心感や癒しを覚えます。さらに、相手の方に身体を向けて視線を逸らさないようにするなど、非言語での受止めも大切です。

ささやかなことのように思えますが、日々意識してこのようなコミュニケーションを図ることによって、日常的な平和だけでなく世界の平和もつくり出されていくのではないのでしょうか。日々忙しい中にありますが、相手の話を傾聴し、受け入れる気持ちを持つことで「共感する力」を高めていきたいものです。

I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

サマーキャンプ& 夏休みスポーツスクール

7 13 14 15

夏
×
楽しむ

この夏も子どもたちのキャンプと夏休み限定のスポーツスクールを開催します。キャンプは毎年人気の「ガールズキャンプ」や「フィッシング海遊びキャンプ」のほか、今年は「富士登山キャンプ」と「種子島宇宙キャンプ」を企画。SDGsに取り組む「地球大好きキャンプ」も注目です。コロナ禍の今こそ、大自然の中で思いっきり野外活動を楽しみましょう。スポーツスクールは、マンツーマンの指導が受けられるプライベートレッスンも好評。YMCAでしっかり身体を動かしましょう。

サマーキャンプ

場 熊本県内各地、種子島、静岡 因 5日間デイキャンプ、3日間えいごデイキャンプ、はじめて体験キャンプ、はじめての海キャンプ、夏のガールズキャンプ、昆虫大作戦キャンプ、地球大好きキャンプ、フィッシング海遊びキャンプ、清流の森キャンプ、富士登山キャンプ、種子島宇宙キャンプ、阿蘇冒険ロングキャンプ 期 6月12日(土)9:00～Web受付開始



スポーツスクール

場 スポーツスクール／みなみセンター(南区田迎)・ながみねファミリーセンター(東区長嶺南) 因 水泳・体操・サッカー・プライベートレッスン



詳細はWebで▶

ユーパレス弁天 生涯学習講座

4

弁天
×
学び

ユーパレス弁天では、生涯学習講座を8月から順次開講します。初心者大歓迎のウクレレ教室や水彩画教室、仕事に役立つWord、Excel講座、基礎から学ぶ介護講座など幅広いテーマです。ぜひご参加ください。



場・期 ユーパレス弁天(合志市野々島)

Tel 096-348-2626

各教室の詳細は6月中旬に、Webサイトでご案内します。



ユーパレス弁天Webサイト▶

回日時 場会場 因内容 費参加費 定定員 図参加条件 持持ち物 対対象 催主催 締締切 申申込 問問合せ 他その他

ミャンマーYMCA 緊急支援募金報告

2月1日、ミャンマーで国軍によるクーデターが発生。これに抗議する多くの市民デモに対し治安部隊が発砲し、死傷者や拘束される人びとが増大しました。ミャンマーYMCAでも民主化の発言をした関係者や選挙に関わっていたスタッフが拘束されるなど緊張状況が続いています。これを受け、熊本YMCAは4月30日(金)まで緊急支援募金活動に取り組み170万円以上が集まりました。この募金は、現地YMCAを通じて、ミャンマーの市民のいのちと安全を守る活動のために用いられます。



これまでも熊本YMCAはミャンマーのモガウンYMCAを通して、エイズ孤児の支援を行ってきました

わたしと聖句

熊本聖書教会
長澤忠雄

ルカによる福音書 10章 29節

「では、わたしの隣人とは誰ですか」

共に生きる

冒頭の聖句は聖書の専門家が、「では、わたしの隣人とは誰ですか」と問い返した箇所です。そこでイエス様は、3つの生き方があることを話されました。

第一は、あなたのものは、わたしのもの。強盗のような生き方です。自分を大切にする自己愛と、自分のことしか考えようとしない利己愛とは異なります。利己愛は、自分のため人を踏台にして利用しようとしします。そのような生き方では、決して人を生かすことも、共に生きることもできません。

第二は、わたしのものは、わたしのもの。53年前に「イタイイタイ病」が深刻な社会問題の一つとなりました。三井金

属の鉱毒で患者が、「痛い、痛い」と訴えたので「イタイイタイ病」と名付けられました。

「愛する妻と子どももいる。家族そろって教会に行く、牧師さんの説教が長くてくどいのが少々難だが、耐えられないほどのことではない。感謝!」。これだけでは、立派な、「イタクナイ、イタクナイ病」と言えるでしょう。人の痛みを感じない生き方です。

第三は、わたしのものは、あなたのもの。イエス様は、「だれが隣人になったか」と質問されます。必要を覚えている人が隣人であることはその通りです。しかし、イエス様は「だれが隣人になったか」と、さらに質問されます。

昨年度までYMCAニュースに、『岡総主事のタラント』が、七十数回にわたり掲載されました。テーマの中心は「共に生きる」でした。苦しむ人々の隣人になり、共に生きたいものです。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／神保 勝己 編集人／辻 健太郎
定価60円 購読料は会費に含む
www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2021年度基本聖句

コリントの信徒への手紙二 4章18節

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。